



石綿（アスベスト）のリスク対策

地方公共団体向け教育・研修

地方自治体での石綿（アスベスト）対策は、①石綿のある公共建築物を管理する立場、②石綿のある公共建築物の解体等を発注する立場、③解体等の工事を監督する立場があります。大気汚染防止法施行規則を所管する大気環境の部署だけではなく、建築、営繕、教育委員会等も石綿と無縁ではありません。建築物石綿含有建材調査者協会（ASA）では、これまでに、多くの地方地自体のご要望により、職員の皆様向けの教育・研修を実施してきました。ご希望により、オーダーメイドの研修や実際の建築物を使用した実地研修も多くの実績があります。建築物石綿含有建材調査者協会の教育・研修をご利用下さい。

A. 全般的な講習

1. 石綿のリスク

石綿とは / リスクの特異点 / 被害の拡大 / 海外の対策

2. 石綿含有建材の種類と使用状況 建材サンプル

3. 石綿の関係法令

大防法 / 廃掃法 / 石綿則 / 建築基準法 / 建設リサイクル法

4. ルーペで観る石綿含有建材（グループワーク）

ルーペを使用して成形板を観察し、石綿含有の有無を推定

5. 石綿のリスクコミュニケーション

環境省リスクコミュニケーションガイドラインの活用 / 厚労省リスクコミュニケーション検討会での話題

B. 環境部署（監督の立場）

6. 事前調査結果報告の確認（講義講習）

報告内容の見方、チェックポイント

7. 事前調査結果報告の確認（実地研修）

報告内容の現場での確認

8. 立ち入り検査のポイント

立ち入り検査でのチェックポイント

C. 環境部署（災害対応の立場）

9. 災害時の対策（講義講習）

10. 災害時の対策（実地研修）

D. 管理部門、発注部門

11. 建物管理部門のための石綿の適正な管理

12. 解体・改修工事の適正な発注

13. 除去時の飛散防止対策

- 立ち入り検査のための実地研修の例 -

研修 1 石綿含有建材

実際の石綿含有建材を使用して、その特徴について解説します。

研修 2 事前調査結果等の報告のチェックポイント

着工年、住所、規模、用途等から石綿が使用されている可能性が高い報告を特定する方法などを解説します。

研修 3 立ち入り検査のポイント

事前調査結果と実際の建築物を比較して、事前調査結果の間違いを探す、実践に近い形式の研修です。

- 災害時のアスベスト対策のための研修例 -

研修 1 講義講習 これまでの災害とアスベスト

東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、能登半島地震での調査や自治体との協力関係など経験を中心にお話します。

研修 2 講義講習 災害時のアスベスト対策

環境省アスベスト災害時マニュアルによる災害時のアスベスト対策について検討します。

研修 3 実地研修 露出状況の調査の実際

対象となる自治体の防火地域の範囲を都市計画図で確認し、吹付け石綿が使用されている可能性のある建築物をスクリーニングします。防火地域を巡視して、アスベスト含有建材を確認して記録する実習をおこないます。

ASA では調査者・事業者向けの講習も多く開催しています。詳しくは HP をご参照ください。

<https://asa-japan.or.jp/>

